

# MOBILE SUIT RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka

SPECIFICATION / MODEL NUMBER:RX-78-2 / HEIGHT:18.0m / WEIGHT:43.4t / MATERIAL:LUNA-TITANIUM ALLOY  
ARMAMENTS:60mmVULCAN×2・BEAM SABER×2・BEAM RIFLE・HYPER BAZOOKA  
Assignment:EARTH FEDERATION SPACE FORCE

## MOBILE SUIT RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka

MG RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka

Instruction making staff

Produce/direction : HAJIME KATOKI  
Edition : SUNAO TAKAGI(KADOKAWA SHOTEN)  
Design : diceKsaito  
Writing : KOICHI YAZAWA(BEAN KIDS)  
Photo : ENTANIYA  
Coloring : KENICHI MIYASHITA  
Marking : YUJI KONNO(JAM)  
Special thanks : ART BOX CO.LTD.



BANDAI 2002 MADE IN JAPAN

E.F.S.F. PROTOTYPE CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT  
U.C.0079-U.C.0080

U.C.0079.09.18 The First Battle, Encounter of Side 1's 1st Bunch Colony. U.C.0079.12.24 Capture of Solomon.  
U.C.0079.11.07 The Odessa Campaign starts. U.C.0079.12.29 E.F.S.F. begins The Star One Campaign.  
U.C.0079.11.09 The Odessa Campaign is completed. U.C.0079.12.31 The Battle of A Baoa Qu.  
U.C.0079.11.30 Zeon's Descent to Jaburo Operation. U.C.0080.01.01 The One-Year War ends.

写真の完成品は塗装してあります。

0114215



# What about "Ver.Ka"

## 「Ver.Ka」は、こうして生まれた。

Hajime;Katoki Interview

ガンダムシリーズのプラモデル開発と密接な関わりを持つデザイナー・カトキハジメ。そのカトキ氏がリアリズムを追究し、ハードディテールを施したMSが「カトキハジメバージョン」と呼ばれるもの。RX-78-2がVer.Kaとしてリファインされるまでの経緯とその行為に込められた想いについて氏に話を聞いてみた。

アニメや模型の分野におけるモビルスーツのデザインは、ファーストガンダムにおける大河原邦男や安彦良和によるオリジナルデザインを尊重しつつ、20余年に渡って様々な変遷があった。その歴史の中でこの10年間ガレージキットなどにおいて数多く制作されてきたRX-78「カトキハジメバージョン」(以下、Ver.Ka)が、今回初めてプラモデルとなった。このVer.Kaのリファインを担当したカトキハジメは、現在では数々の「HGUC」や「マスターグレード」(以下「MG」)シリーズのコンセプト

画稿を手掛けることで有名なデザイナーである。そのカトキ氏にVer.Kaのデザインについて色々話を聞いてみた。

—RX-78Ver.Kaを描かれた頃の時代背景や、実際にデザインをされた経緯についてお聞かせいただけますか？

**カトキ:** このRX-78Ver.Kaをデザインしたのは、ファーストガンダムがTV放映されてから10周年を迎えた時期で、アニメ作品と言えばOVA「機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争」(以下、

「0080」)が制作されていた頃です。当時、モビルスーツのデザインは、TVシリーズ「機動戦士Zガンダム」より端を発するリアルなライン—例えば、複雑なディテールや実際の可動を考慮に入れた関節などを重視したもの—が主流とされており、それはプラモデルの進化—フォームや可動のクオリティアップ—にもその都度反映されていきました。

そしてTVシリーズ「機動戦士ガンダムZZ」や劇場用作品「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」を経て「0080」でも「リアル志向のモビルスーツ

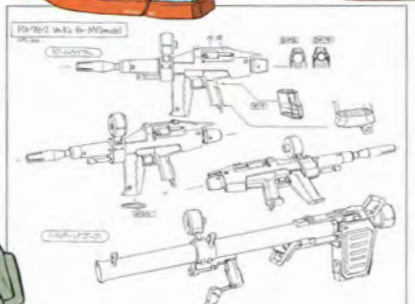
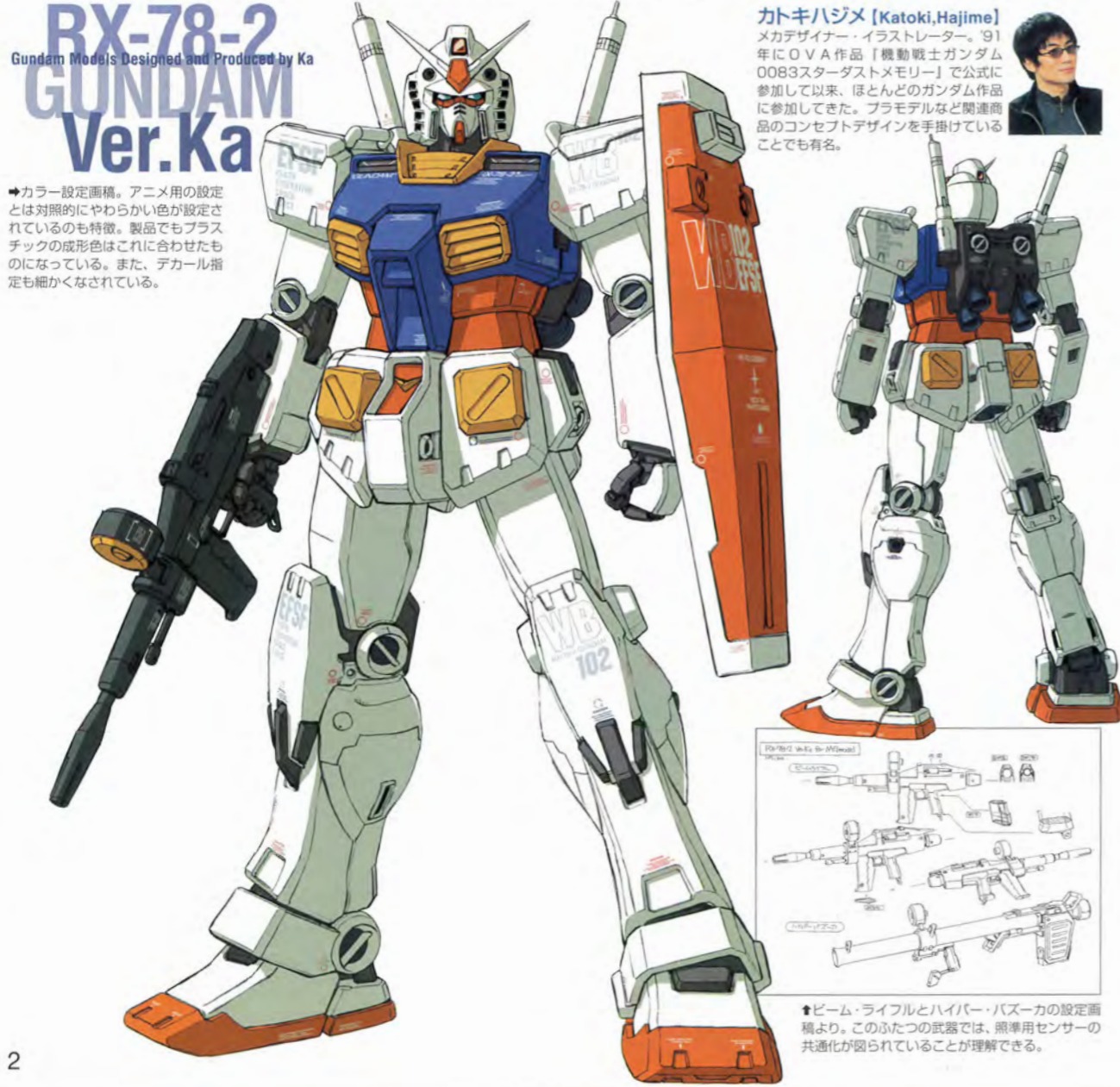
### カトキハジメ [Katoki, Hajime]

メカデザイナー・イラストレーター。'91年にOVA作品「機動戦士ガンダム0083スターダストメモリー」で公式に参加して以来、ほとんどのガンダム作品に参加してきた。プラモデルなど関連商品のコンセプトデザインを手掛けていることでも有名。



## RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka

→カラー設定画稿。アニメ用の設定とは対照的にやわらかい色が設定されているのも特徴。製品でもプラスチックの成形色はこれに合わせたものになっている。また、デカール指定も細かくなされている。

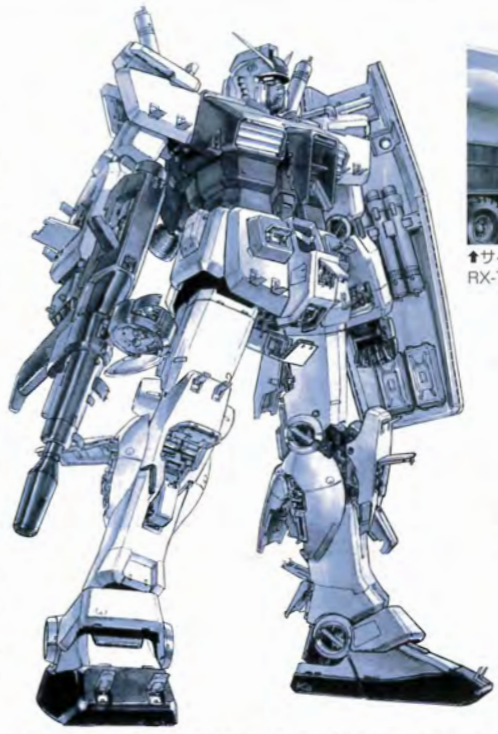


↑ビーム・ライフルとハイパー・バズーカの設定画稿より。このふたつの武器では、照準用センサーの共通化が図られていることが理解できる。

デザイン」が用いられたのですが、この作品はファーストガンダムと同じ一年戦争を舞台にしています。つまり、一年戦争時のモビルスーツでも解釈によっては大幅なディテールアップが許されるということが、本家であるサンライズ作品で示された訳です。これはガンダムの歴史の中でも画期的な出来事だったと思います。

—この考え方がVer.Kaを生み出す引き金となっていた訳ですか？

**カトキ:** そうですね。さらに直接のきっかけとして、当時、バンダイがガンダム10周年を記念してリリースした「HG」シリーズの解説書用に、私が劇中におけるモビルスーツのイラストを担当したことも挙げられます。この「HG」は現在の「MG」や「HGUC」に繋がるリファインの走りというべきシリーズで、大河原邦男さんが新規にデザインした画稿をもとにリアル志向の模型ファンの要望に応えるべくプロポーショナル、ディテール、ギミックなどのクオリティを従来のモデルより高めたモデルでした。私はこのキットのインストに掲載されるイラストを描いたのですが、このとき、各部の可動を考え、機体内部に構造を感じさせるようなRX-78とはどういふものであるか？ということに対して、当時取り組んだ結果、生まれたのがVer.Kaだった訳です。(P.10へ)



↑メンテナンス用ハッチをフルオープンにした状態のRX-78-2。右に掲載した3枚のイラストも含め、HG説明書用に描き下ろされたもの。



↑サイド7に潜入したザクによる奇襲を受けたことでRX-78-2が初出撃を迎える1シーン。



↑サイコミュ兵器「ビット」を操り出すジオン軍NT用MA「エルメス」と交戦中のRX-78-2。

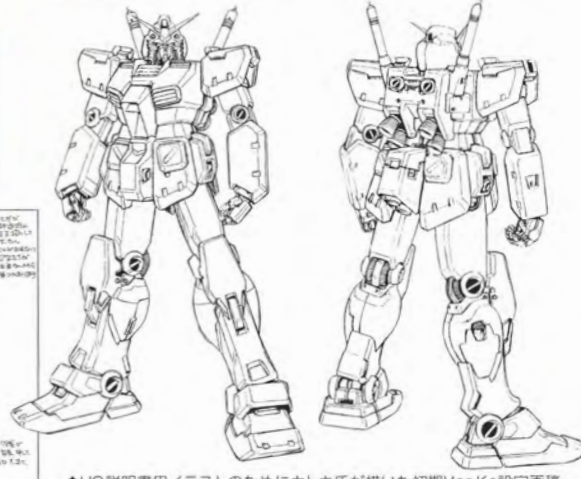


↑サイド6宙域において、コンスコン隊所属のリック・ドムと交戦直前の状態のRX-78-2。

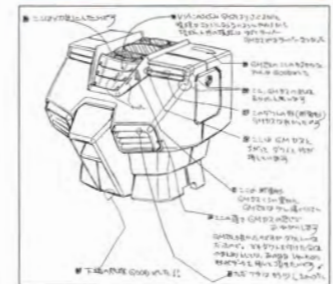


→劇本版第1作のL.Dジャケット用に描き下ろされたカラーイラスト。HG用イラスト以降にカトキ氏が描いたRX-78-2は、基本的にVer.Kaの設定画稿を踏襲したものになっている。ハッチを意識した全身のパネルラインにも注目。

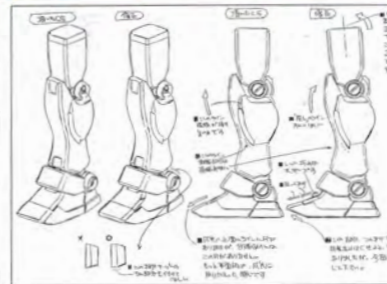
→「機動戦士ガンダム:0079RPG」(大日本絵画・刊)表紙用に描き下ろされたカラーイラスト。HGイラスト用設定をベースとしながら、バストアップ画として耐え得るよう胸部上面&左肩にさらなるディテールが追加されている。



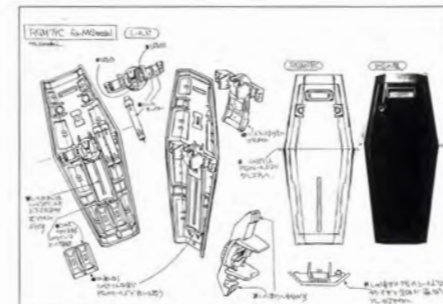
↑HG説明書用イラストのためにカトキ氏が描いた初期Ver.Ka設定画稿。本画稿を元にフルスクラッチされた作例と共に「月刊モデルグラフィックス」'90年7月号に掲載された。この画稿で示されたVer.Kaの基本的な特徴は、今日の製品にもフィードバックされている。



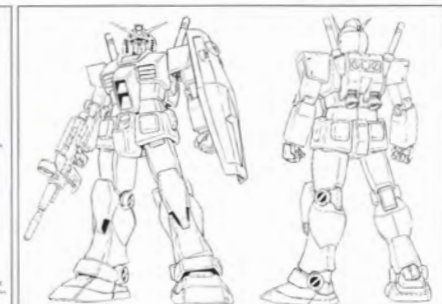
↑Ver.Kaの胸部造形について問題となりそうなポイントを記した設定画。詳細な部分にまでカトキ氏からの指示が出されている。



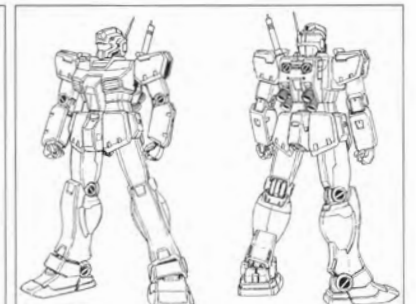
↑先に発売されている同じMGシリーズのGM改と、Ver.Kaの脚部の相違点を示した設定画稿。膝パーツ、爪先の直線的なラインを皮切りに細部も修正されている。



↑ハードポイントの上下可動用レールの追加など、HG説明書に描かれた設定よりディテールアップされているシールドの画稿。右は比較用のパーフェクトグレードのシールド。



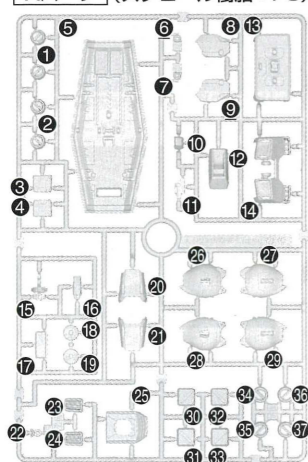
↑HGUC RX-78-2用にカトキ氏が描いたコンセプトデザイン画稿。Ver.Kaとは異なりアニメ劇中のイメージを優先したリファインがなされている。



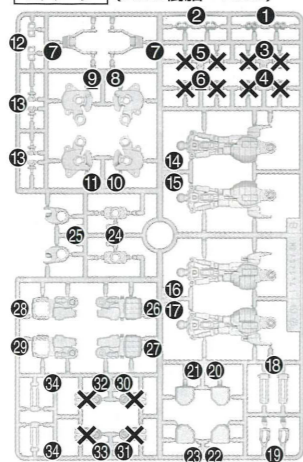
↑RGM-79C「GM改」のMG用コンセプトデザイン画稿。左ページのVer.Kaの画稿と比べてみると、同系列の機体であることが分かるだろう。

# パーツリスト

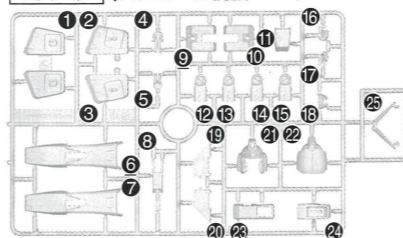
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



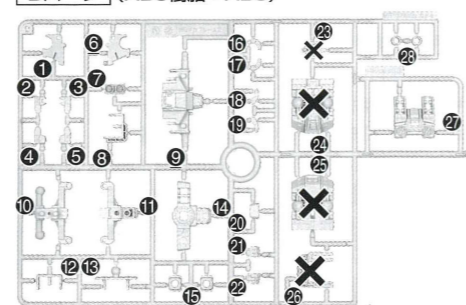
Bパーツ (ABS樹脂: ABS)



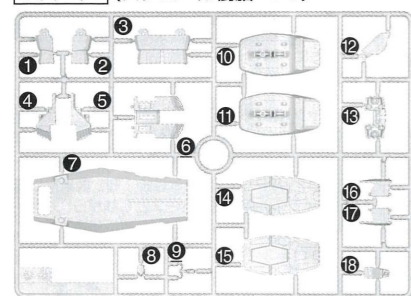
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



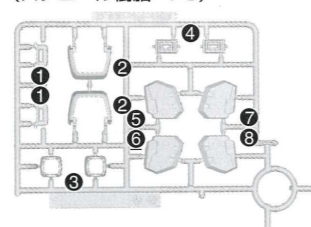
Dパーツ (ABS樹脂: ABS)



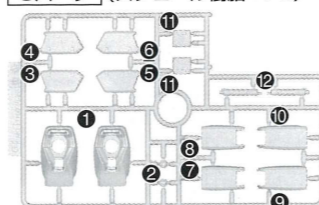
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



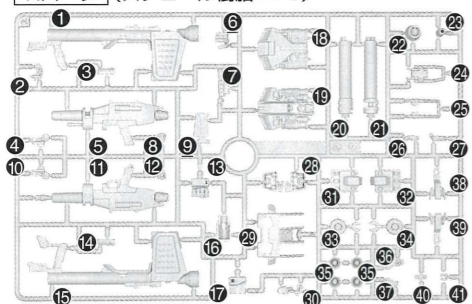
Fパーツ (スチロール樹脂: PS)



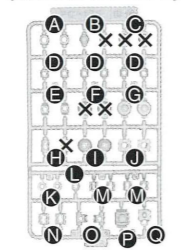
Gパーツ (スチロール樹脂: PS)



Hパーツ (スチロール樹脂: PS)



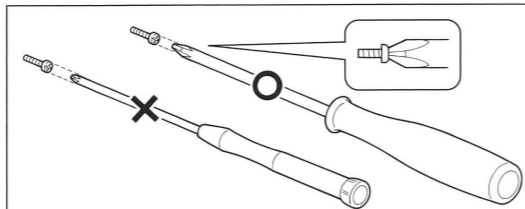
PC-126プラス (ポリエチレン: PE)



SB1パーツ (スチロール樹脂: PS)



- カラーシール……………1枚
- マーキングシール……………1枚
- ガンダムデカール……………1枚
- メッシュパイプ……………1本 (PET樹脂: PET)
- ビス……………4個+1個



## 注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15歳以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

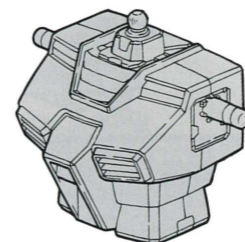
※このキットの組み立てには+ (プラス) ドライバーを 사용합니다ので別にご用意ください。

・接着をするところの線	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取る場所	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かします

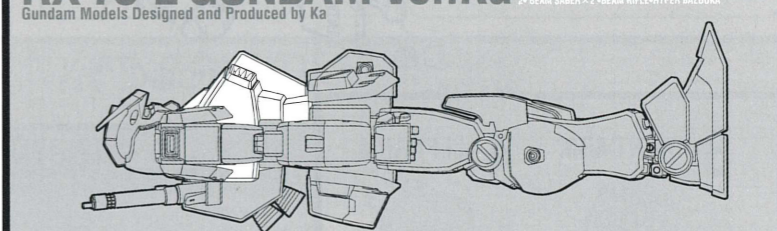
## 〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

## 1 BODY

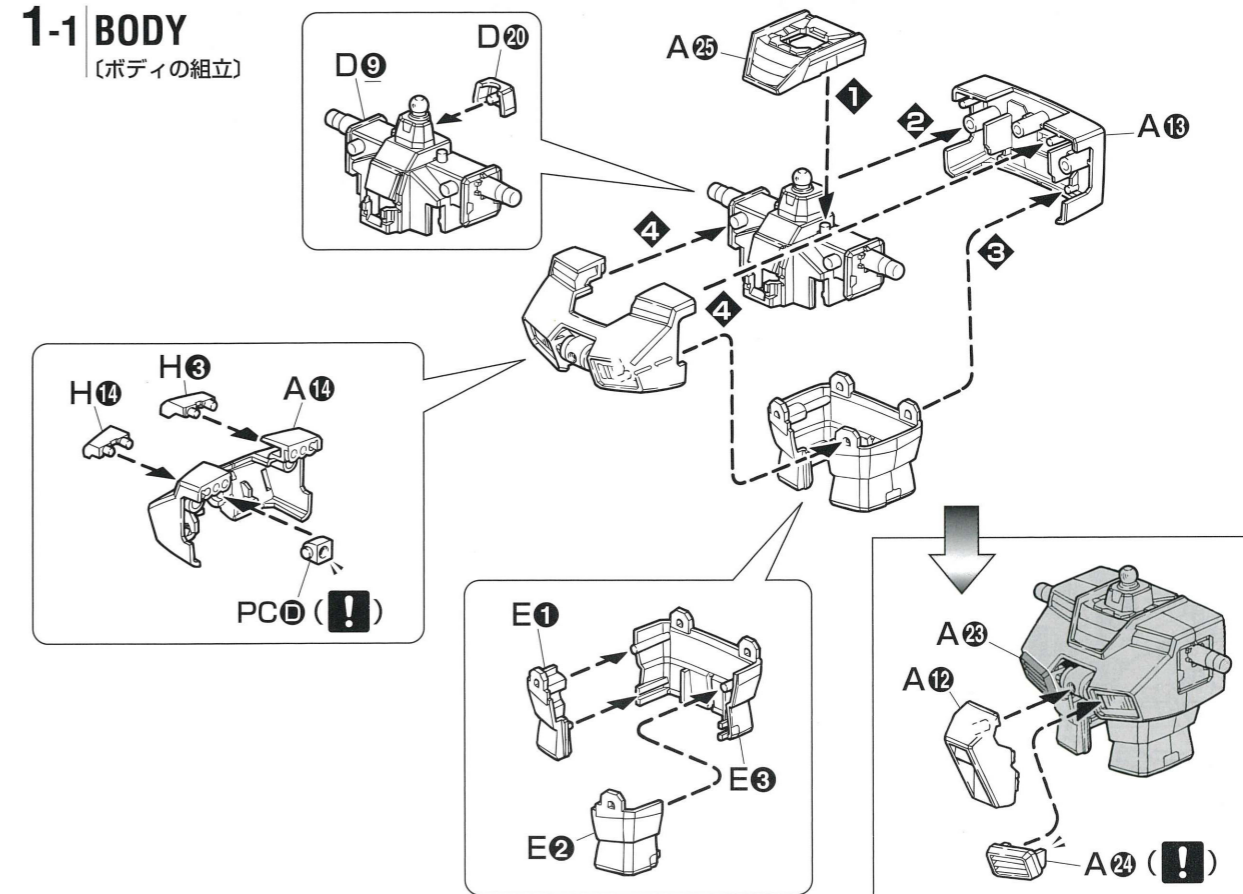


## RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka

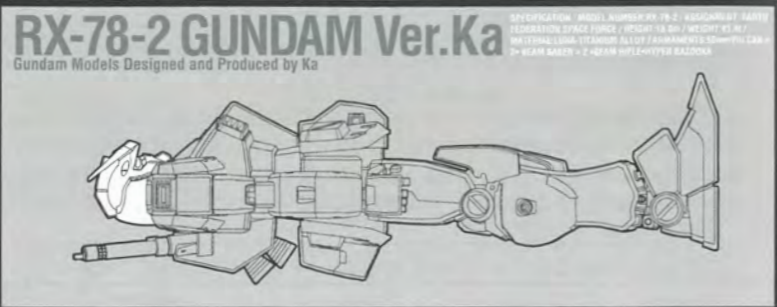


## 1-1 BODY

〔ボディの組立〕

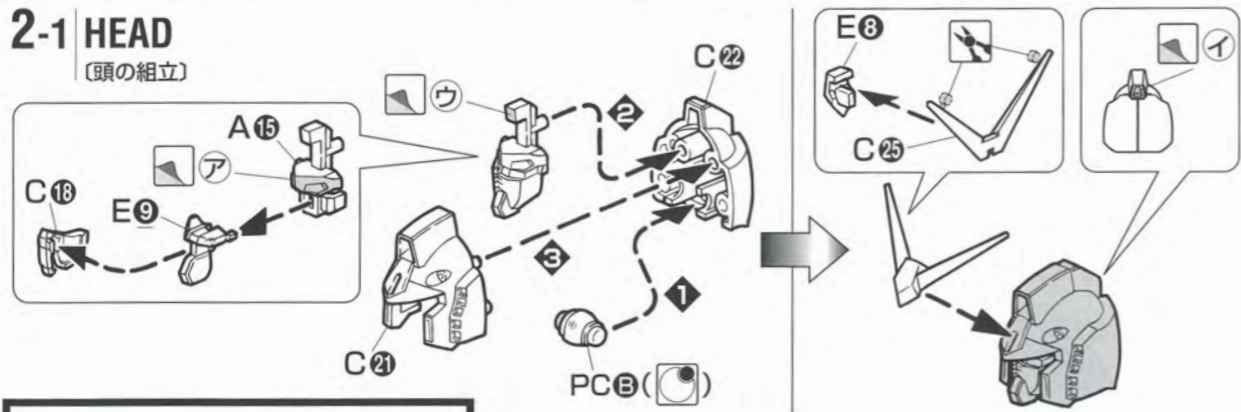


## 2 HEAD



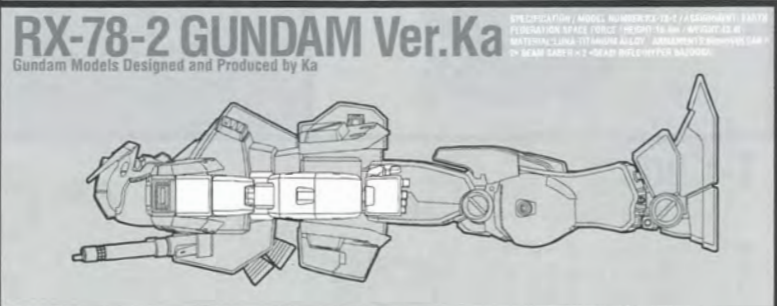
**RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka**  
Gundam Models Designed and Produced by Ka

### 2-1 HEAD [頭の組立]



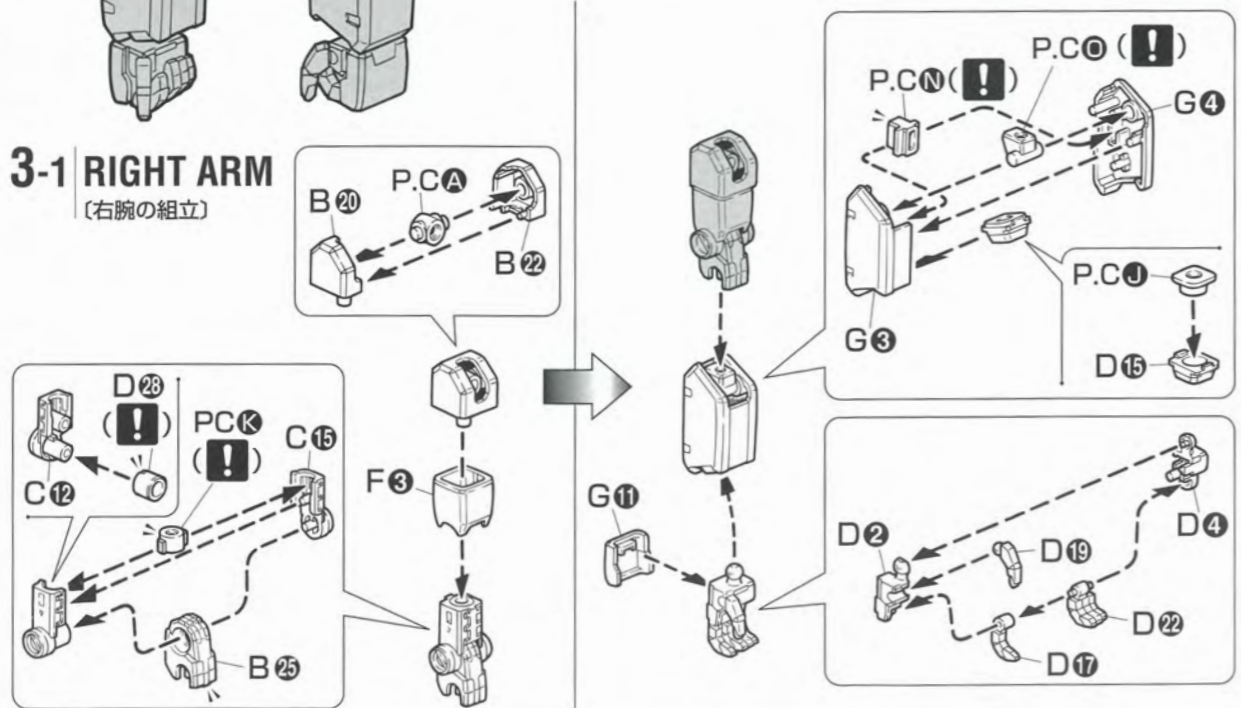
## 3 RIGHT ARM

## 4 LEFT ARM

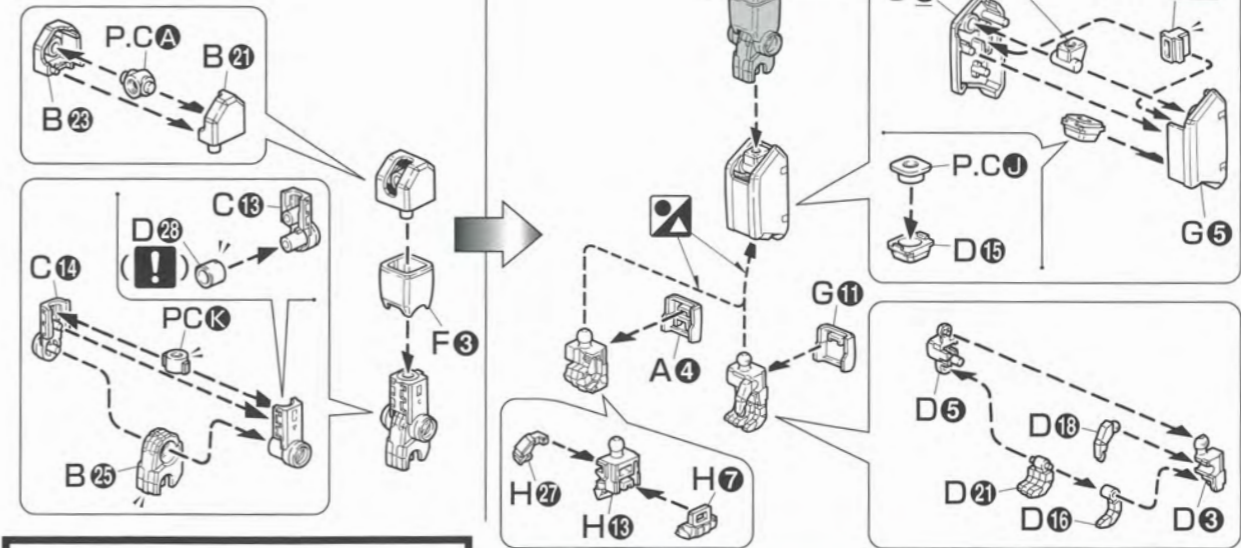


**RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka**  
Gundam Models Designed and Produced by Ka

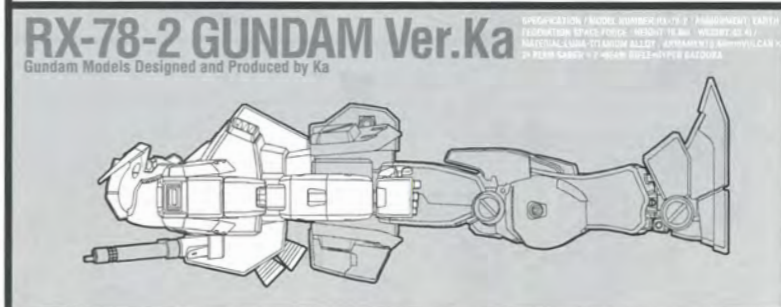
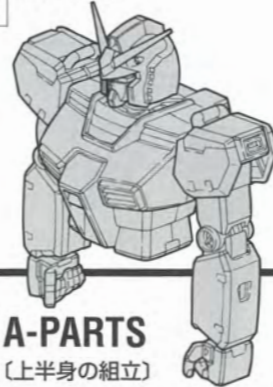
### 3-1 RIGHT ARM [右腕の組立]



### 4-1 LEFT ARM [左腕の組立]

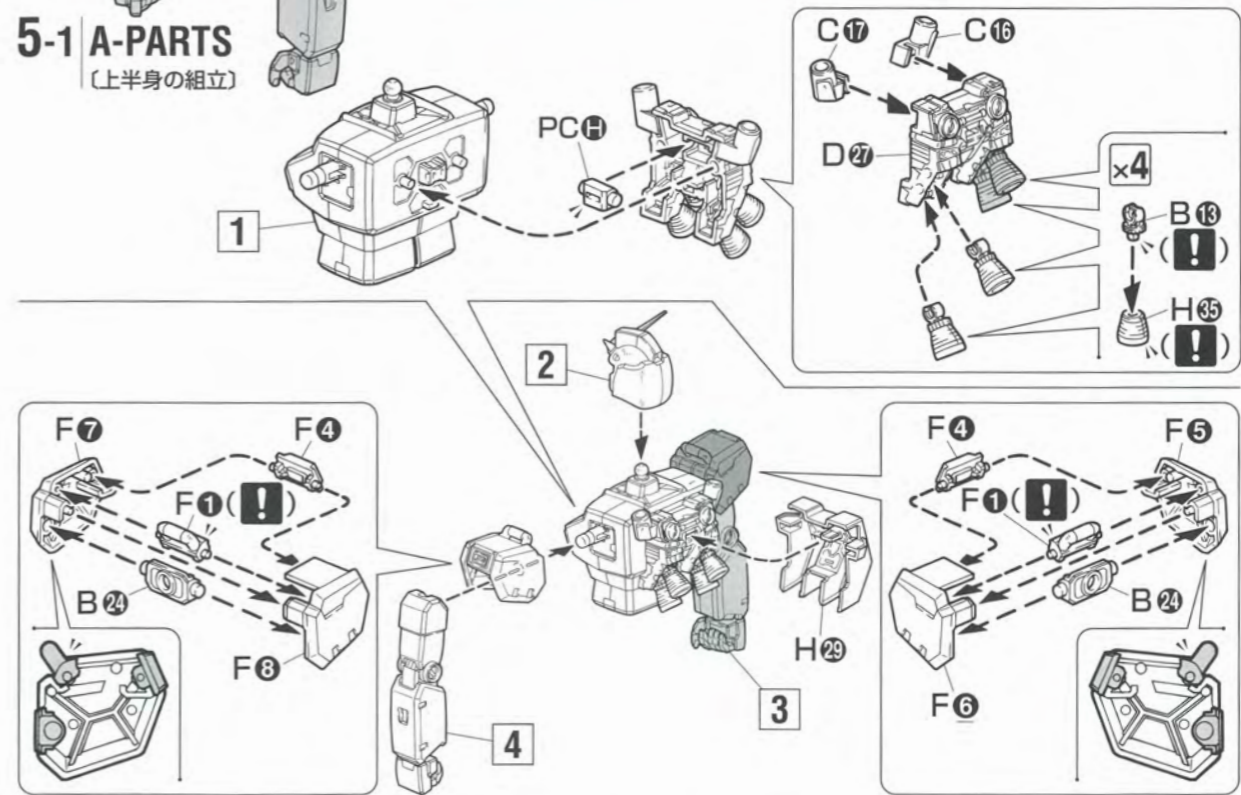


## 5 A-PARTS

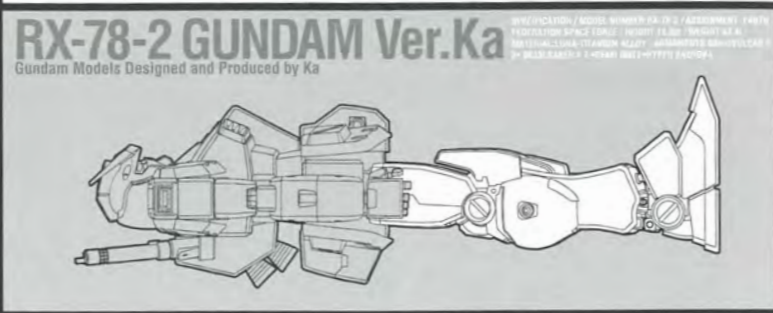
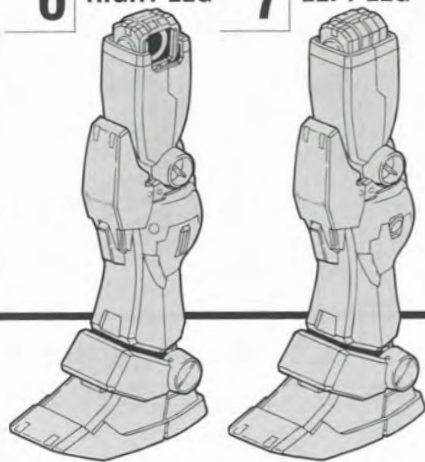


**RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka**  
Gundam Models Designed and Produced by Ka

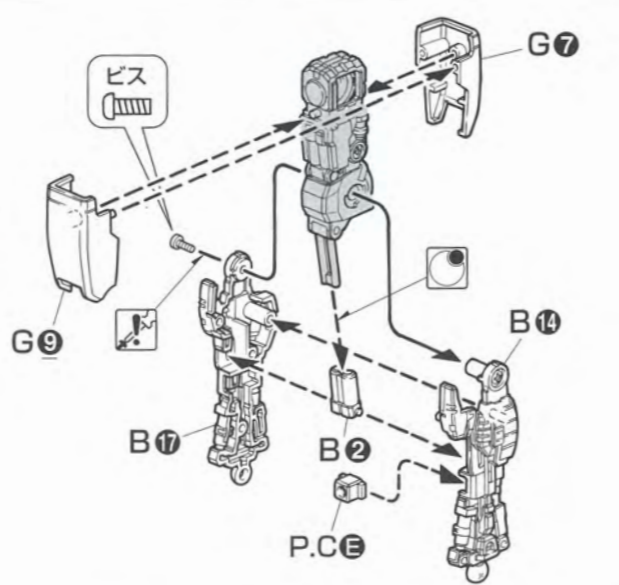
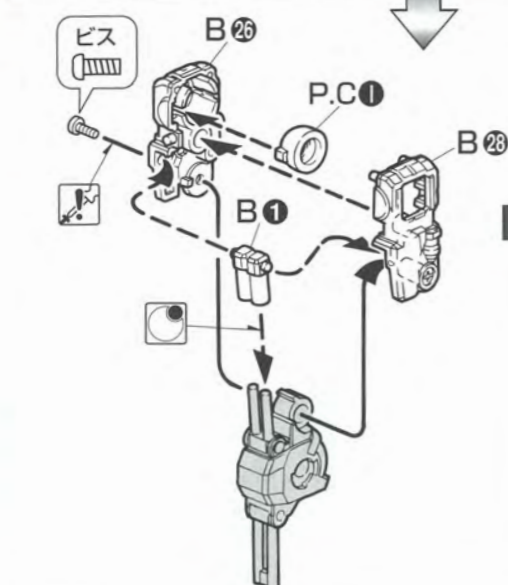
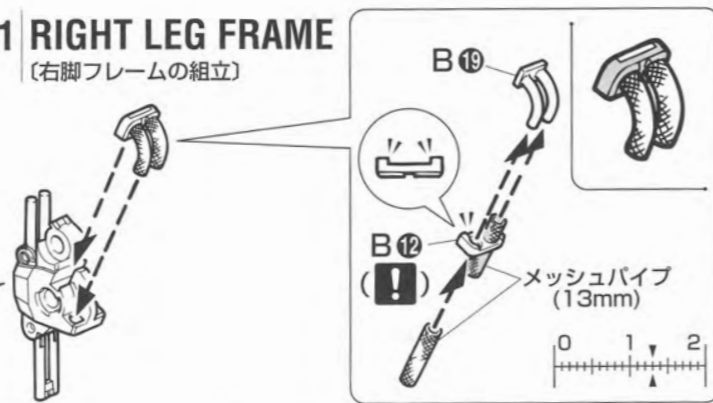
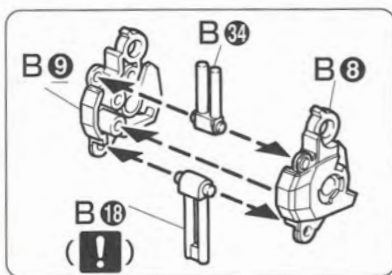
### 5-1 A-PARTS [上半身の組立]



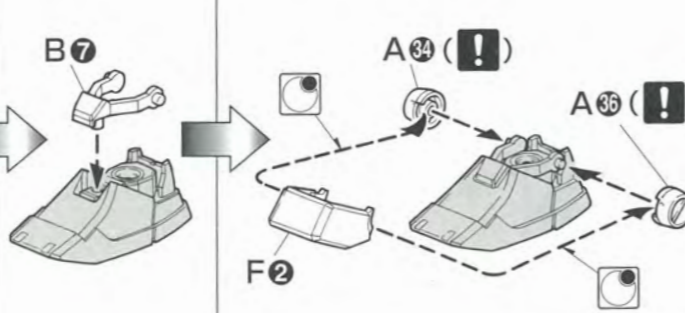
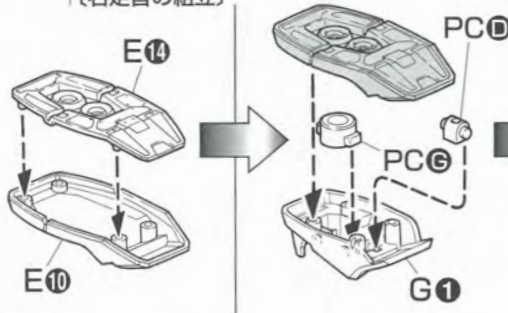
6 RIGHT LEG 7 LEFT LEG



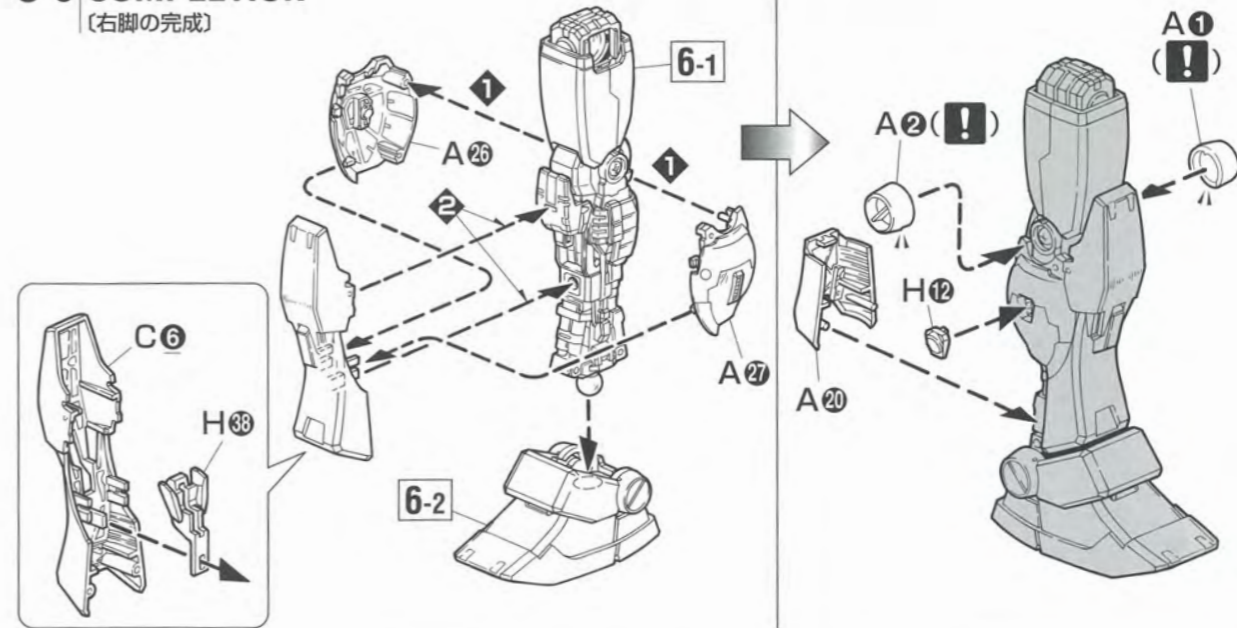
6-1 RIGHT LEG FRAME  
〔右脚フレームの組立〕



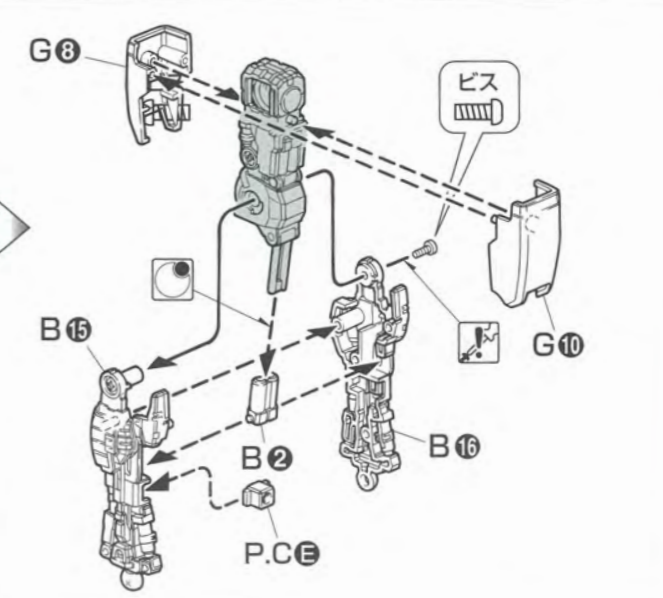
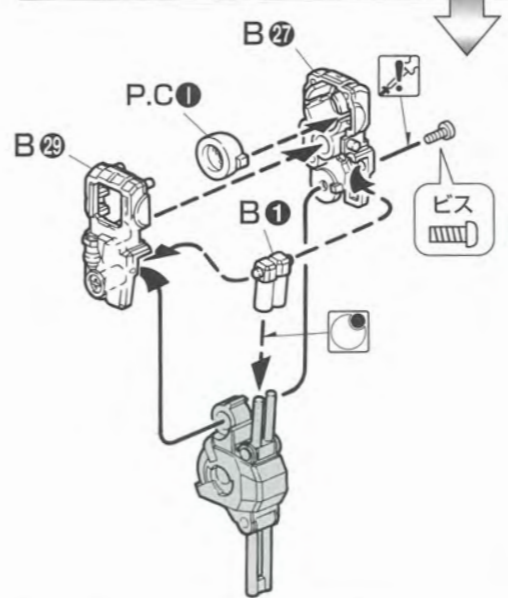
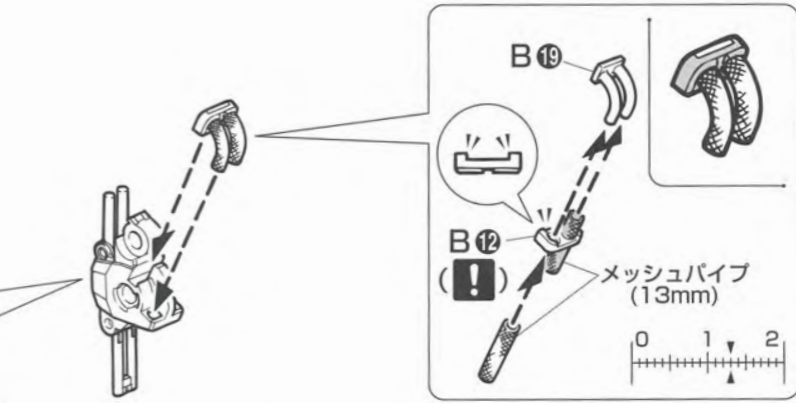
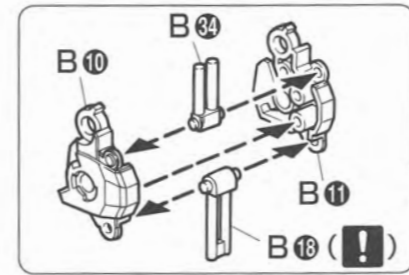
6-2 RIGHT ANKLE  
〔右足首の組立〕



6-3 COMPLETION  
〔右脚の完成〕



7-1 LEFT LEG FRAME  
〔左脚フレームの組立〕



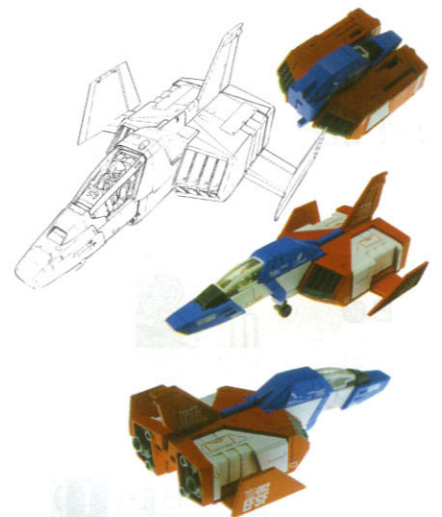


—「0080」の次のOVA『機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY』(以下、『0083』)ではカトキさん自ら多数のモビルスーツをデザインされていますね?

カトキ: そうですね。『0083』にはGMやザクなどの一年戦争時のモビルスーツも登場することもある。最初から『0080』で用いられた解釈のもとでデザインを行いました。「ファーストガンダムの劇中ではシンプルなラインで描かれていたのだから、実際にモビルスーツが存在するとしたらもう少し複雑な形状をしていたのではないかな。もう少し各部に近寄ってみると、さらなるディテールがあったのではないかな……」といったことを考えながらデザインしています。

—『0083』でリファインしたGMは通称「GM改」、形式番号「RGM-79C」と呼ばれるものですが、このモビルスーツはデザイン上でVer.Kaの兄弟機と呼べるものですか?

カトキ: ちょうどVer.Kaを描いた頃の仕事でしたので、関節処理やバックパックや肩ブロックの形状、そして全体のプロポーションに至るまでVer.Kaの



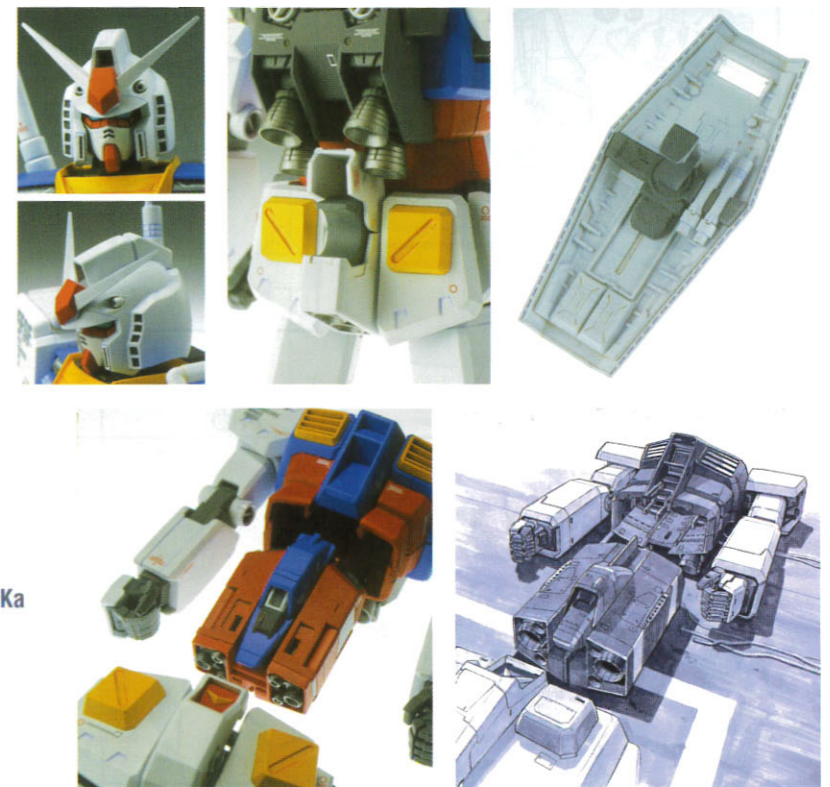
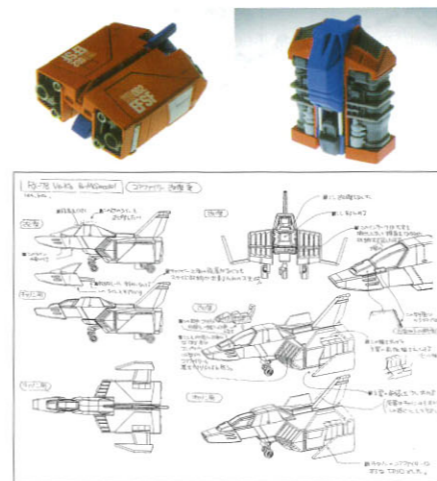
デザインラインがGM改に反映されていることが、両機を見ると感じられると思います。元々、Ver.KaはRX-78のオフィシャルデザインに対するパラレルな存在として位置づけられていたものでしたが、『0083』というオフィシャル作品にデザイン面で反映されたことで、Ver.Ka自体も微妙にUC世界に馴染んだと言えるかもしれません。

—今日ではカトキさんは『HGUC』『MG』のコンセプトデザインとして、模型化に際するデザインのリファイン作業を多く手掛けていますが、そうした商品群の中にVer.Kaが登場することについてどう思われますか?

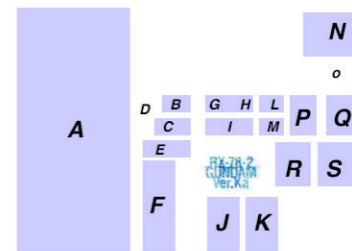
カトキ: 一口にリファインと言っても、様々な方向性がある訳です。私が最初に模型のコンセプトデザインを担当したMGZガンダムではモビルスーツ形態とウェイブライダー形態の両方のフォルムを維持しつつ、組み替え無しの変形機構も考慮に入れた上でのリファイン作業が求められました。この路線は『MG』の「RX-78GP-01」等で踏襲されていく一方で、『MGDM』のようにディテールアップを強く前面に押し出さない形のリファインも手掛ける

ようになってきました。また『HGUC』に至っては、今風の解釈をなるべく排除していく方向でデザインをまとめています。モビルスーツの魅力を引き出すには、とにかくディテールの密度を高めていくばかりではない、という時代に徐々に差し掛かっていることを、私なりに自覚的に捉えた上でのことです。

それに対して徹底したディテールアップが施されているVer.Kaは、私がリアリズム至上主義だった当時の最右翼のデザインと言えます。最近ではディテールアップを最小限に抑制したりリファインが施された模型が主流になっていますが、今回Ver.Kaがリリースされることによって、ハードディテールなリファインに関心が集まって、こうしたジャンルが盛り上がることを期待しています。そしてこれを機会に、従来と全く異なる新たなリアル志向のガンダム・モデル・シリーズ……例えば21世紀版のリアルタイプシリーズやMSVのようなものができたら面白いと思うし、チャレンジしてみたいです。様々な様式がファンの間に認められ、多くの楽しみ方が存在しているガンダムワールドだからこそ、これはぜひ実現してみたいですね。



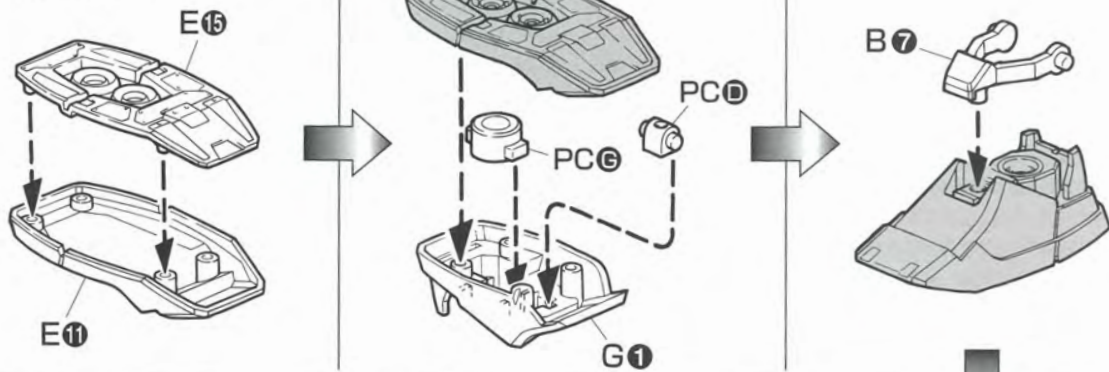
# RX-78-2 Gundam Models Designed and Produced by Ka GUNDAM Ver.Ka



A、F: Ver.Ka全身写真。多数用意されたデカールはリアルなテキストを一層高めてくれる。/B、G: 付属のコア・ファイターはコア・ブロックに変形可能。/C、E: 航空機然としたリファインが成されたコア・ファイター。キャノピーの中にはパイロットの姿が見える。/D、I: コア・ファイターのコンセプトデザイン画稿。MGガンキャノン付属のコア・ファイターからの改修箇所も指示。/H: A、Bパーツの間に収納されるダミーブロック。コックピットにはパイロットが搭乗。/J: 胸部コックピットハッチは開閉可能。/K: 背部バックパックはカバーを外すと内部メカが見える。/L、M: 設定画に忠実な頭部。/N: 付属の武器一式。/O: HG説明書用に描かれた武器のイラスト。/P: 股間ブロックに仕込まれた「バズーカマウントラック」。/Q: 設定画通りのディテールが盛り込まれたシールド背面。/R、S: HG説明書に掲載されたイラストの状態をキットで再現。コア・ブロックは、A、Bパーツの中へ収納可能。

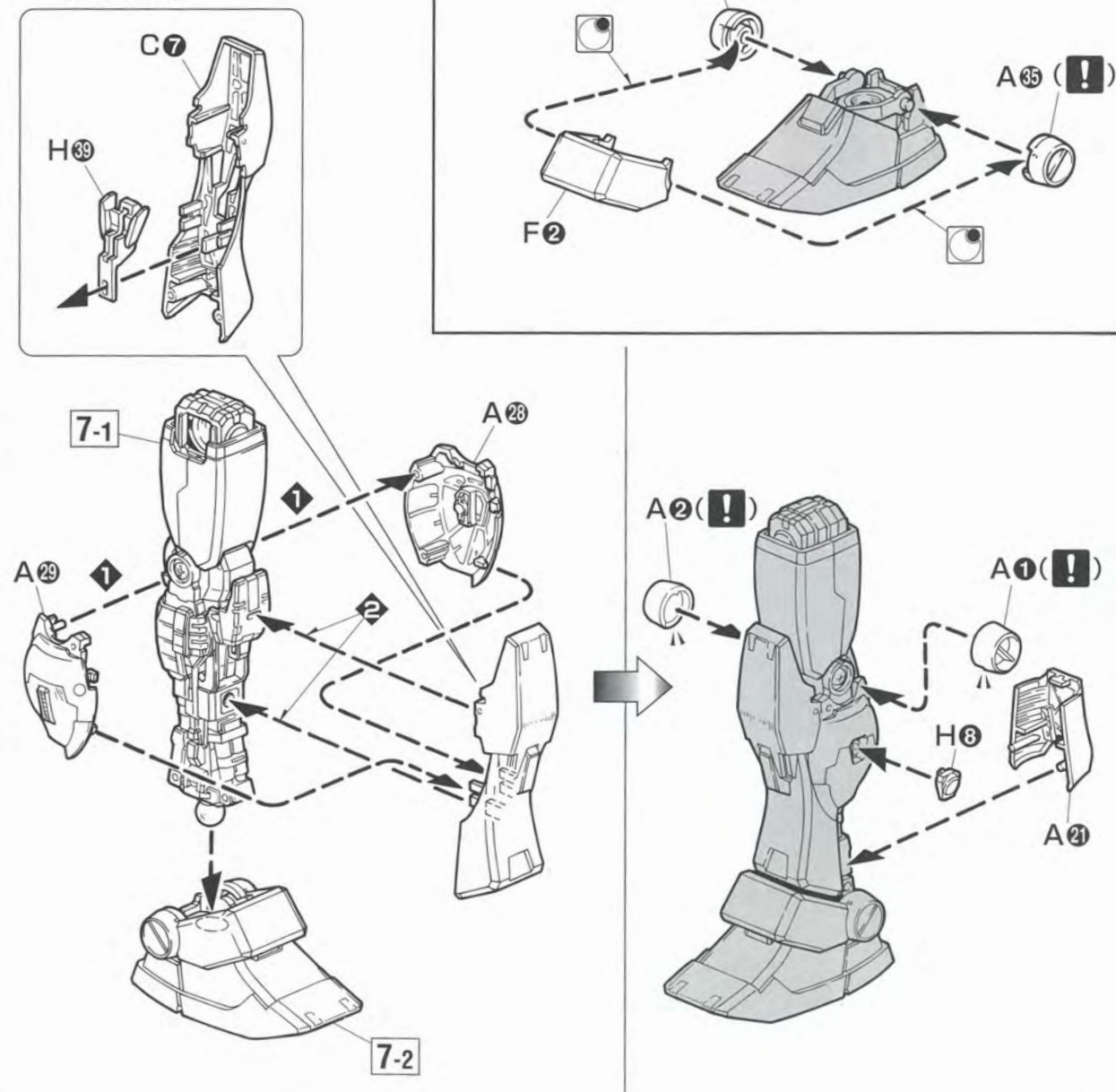
## 7-2 LEFT ANKLE

(左足首の組立)

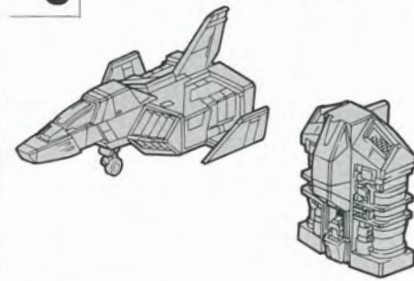


## 7-3 COMPLETION

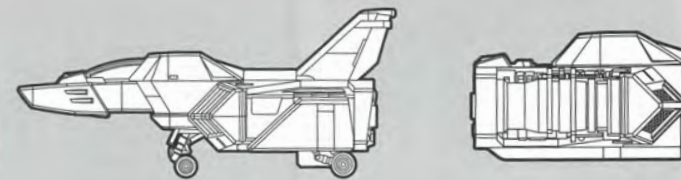
(左脚の完成)



## 8 CORE FIGHTER / CORE BLOCK

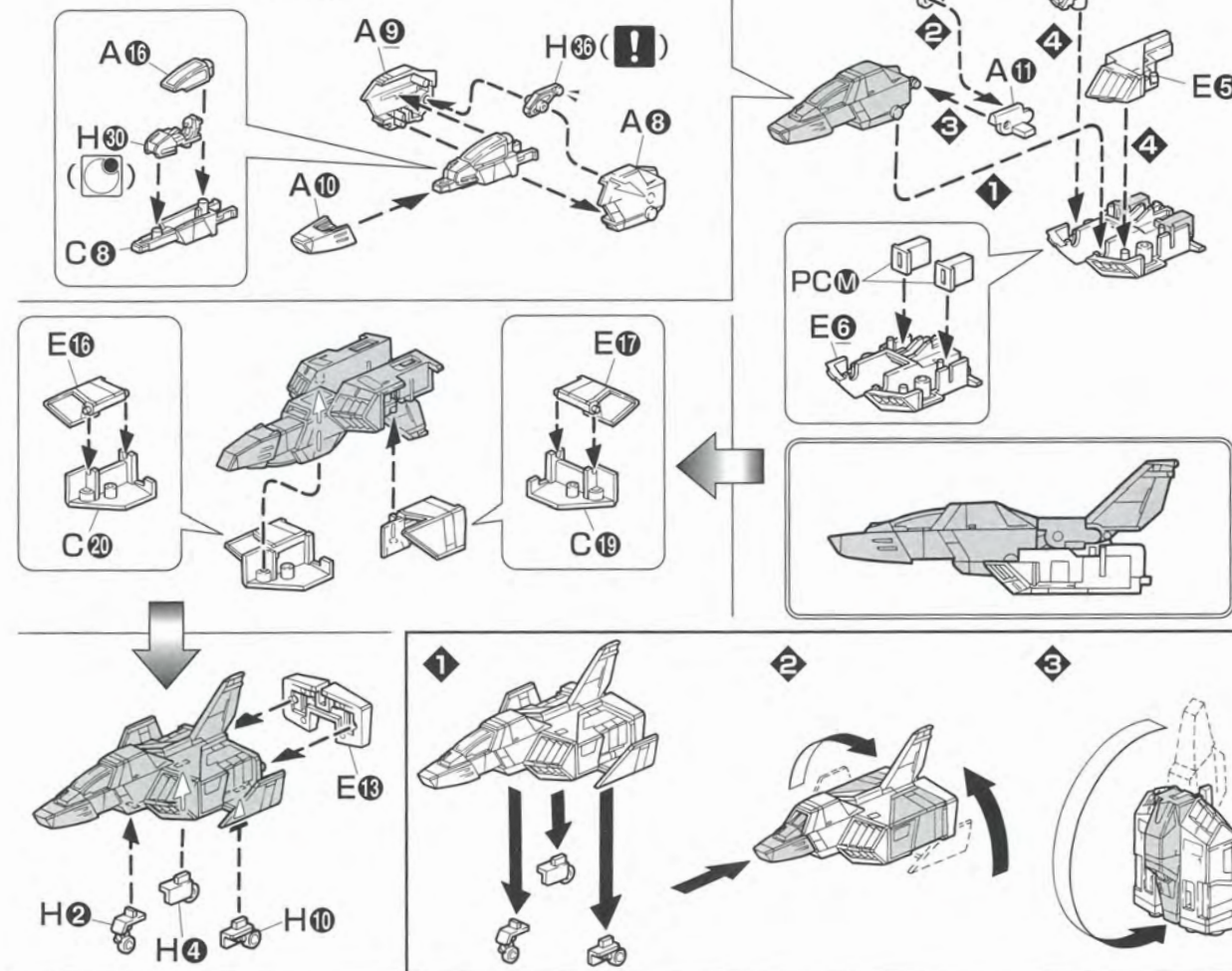


**RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka**  
Gundam Models Designed and Produced by Ka



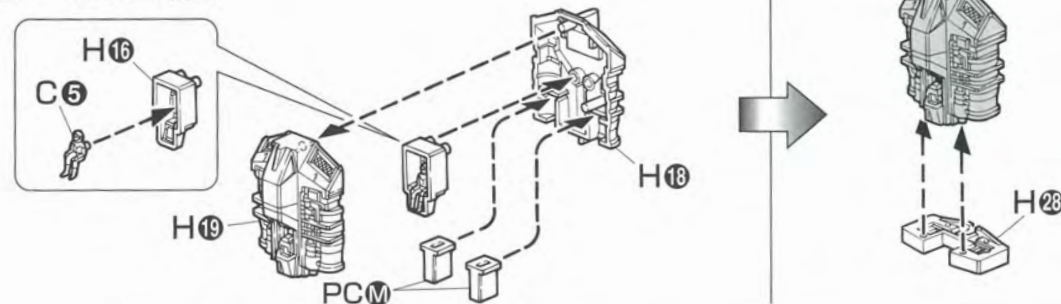
## 8-1 CORE FIGHTER

(コア・ファイターの組立)

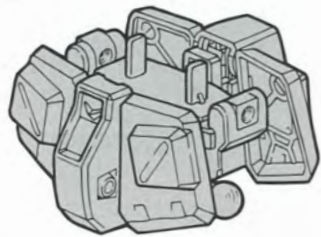


## 8-2 CORE BLOCK

(コア・ブロックの組立)

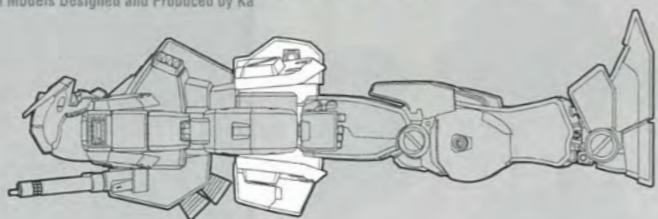


# 9 WAIST



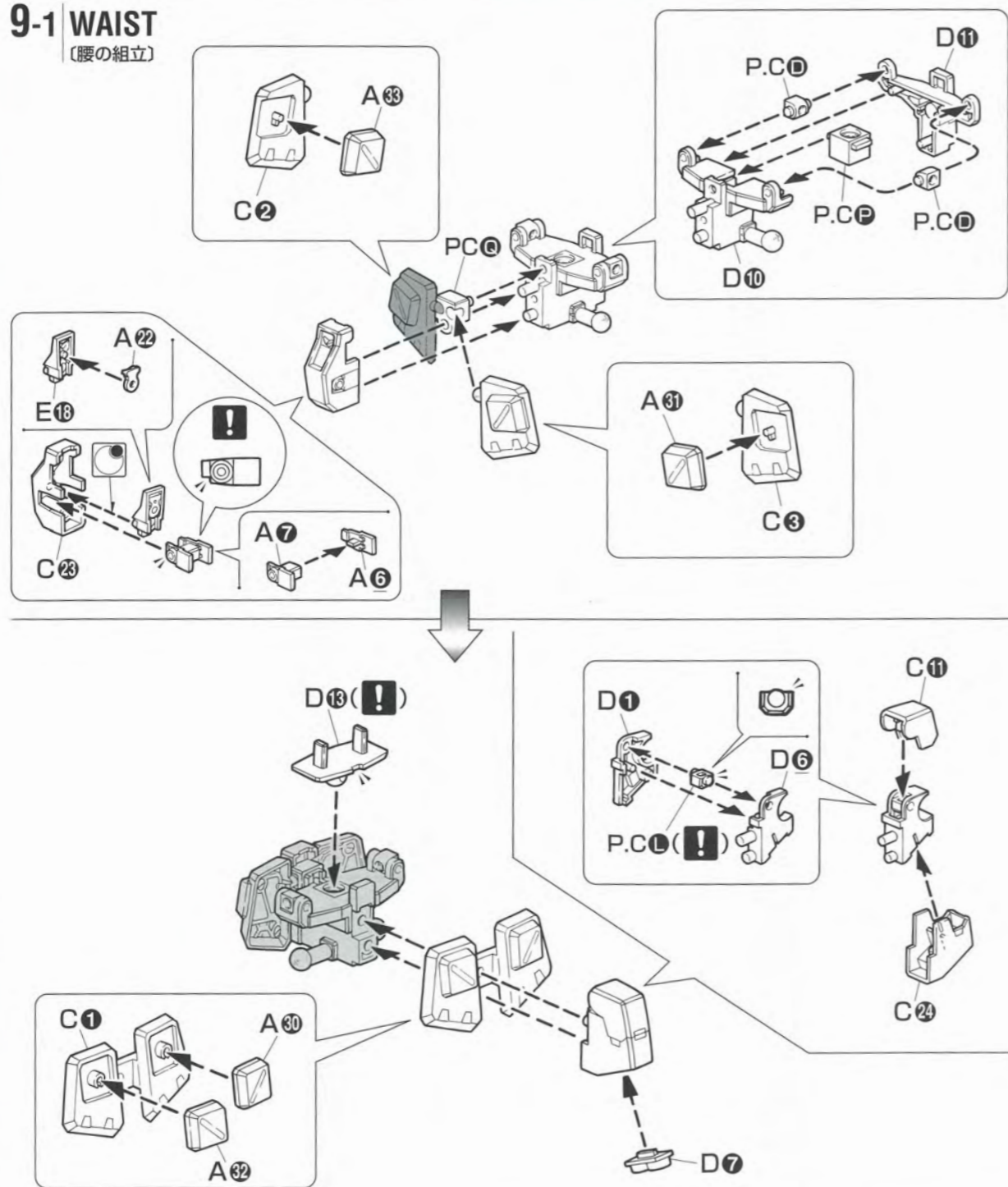
## RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka

Gundam Models Designed and Produced by Ka

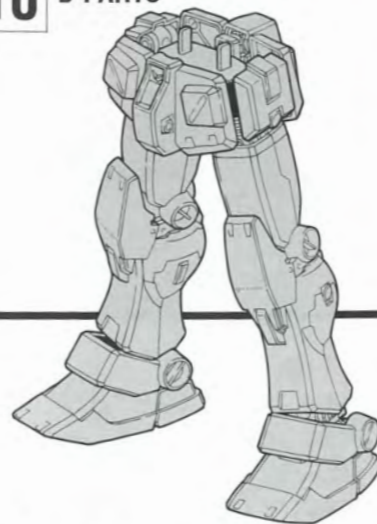


### 9-1 WAIST

(腰の組立)

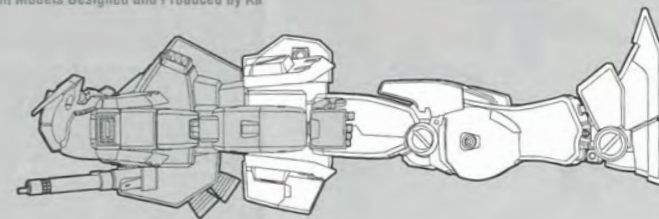


# 10 B-PARTS



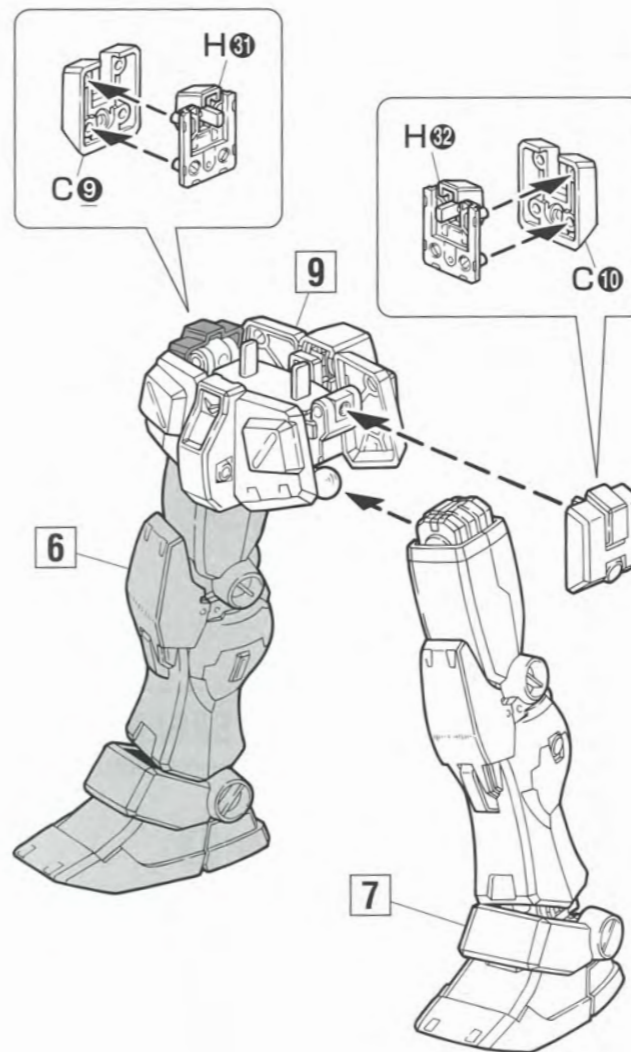
## RX-78-2 GUNDAM Ver.Ka

Gundam Models Designed and Produced by Ka

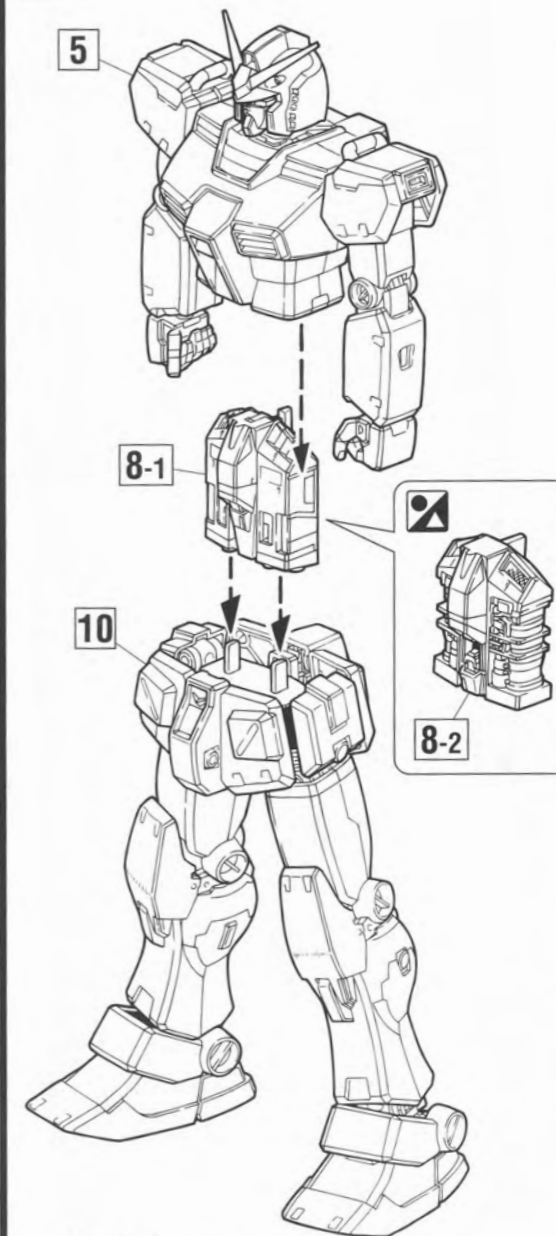


### 10-1 B-PARTS

(下半身の組立)



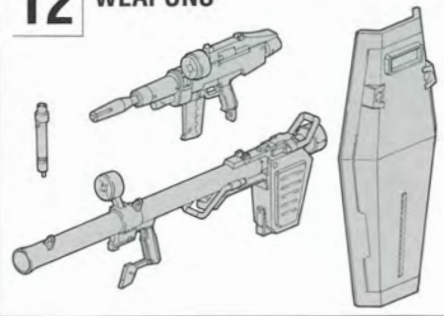
### 11 FINAL ASSEMBLY



※C4は好みの場所に飾ってください。

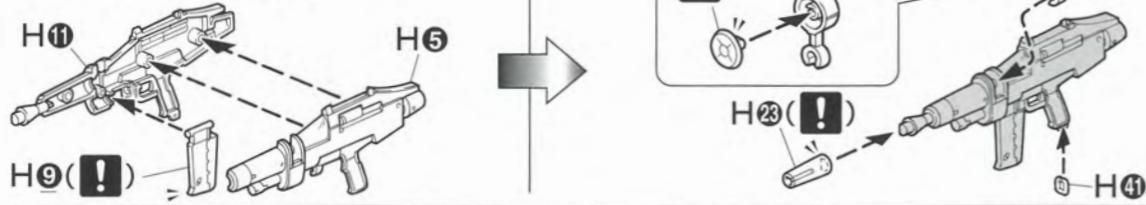


# 12 WEAPONS



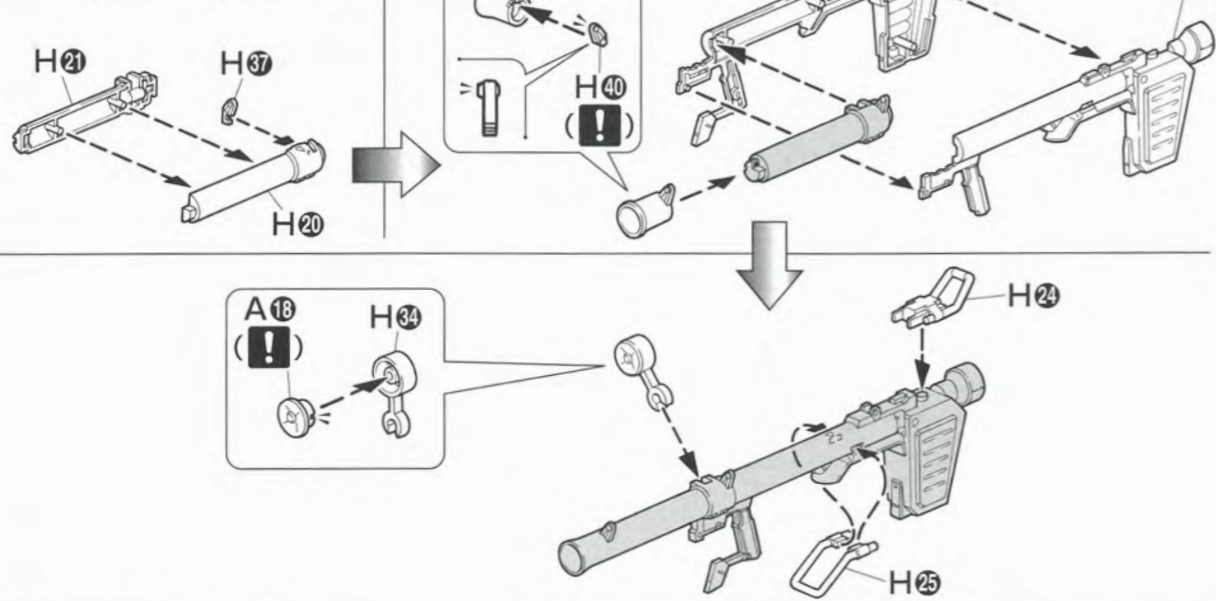
## 12-1 BEAM RIFLE

(ビーム・ライフルの組立)



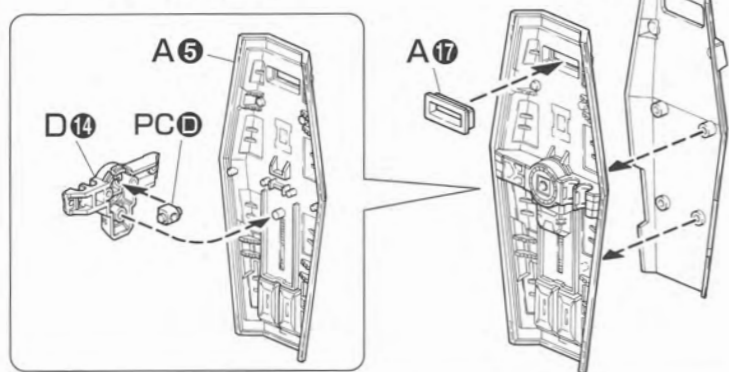
## 12-2 HYPER BAZOOKA

(ハイパー・バズーカの組立)



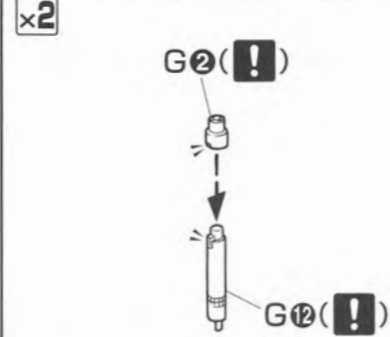
## 12-3 SHIELD

(シールドの組立)



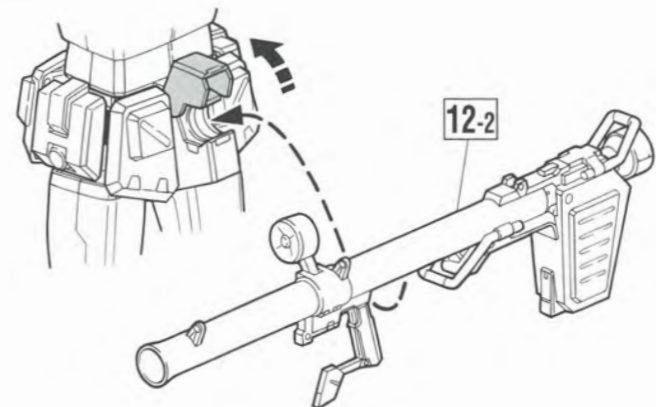
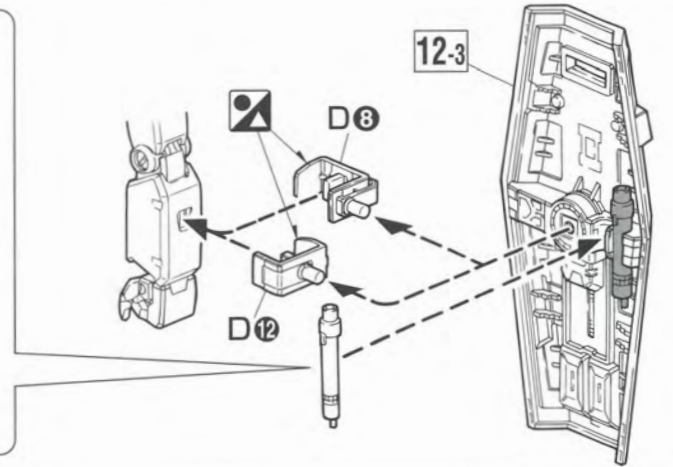
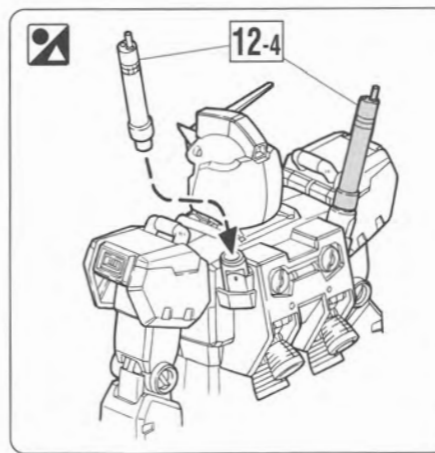
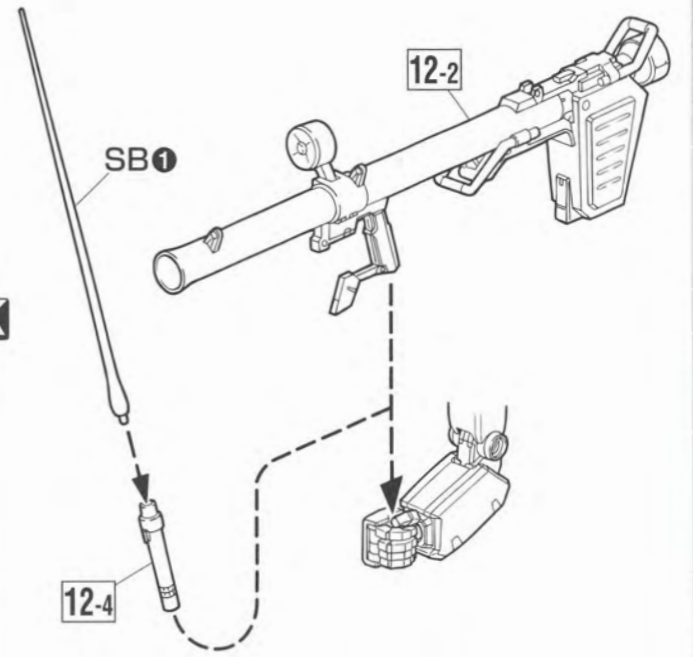
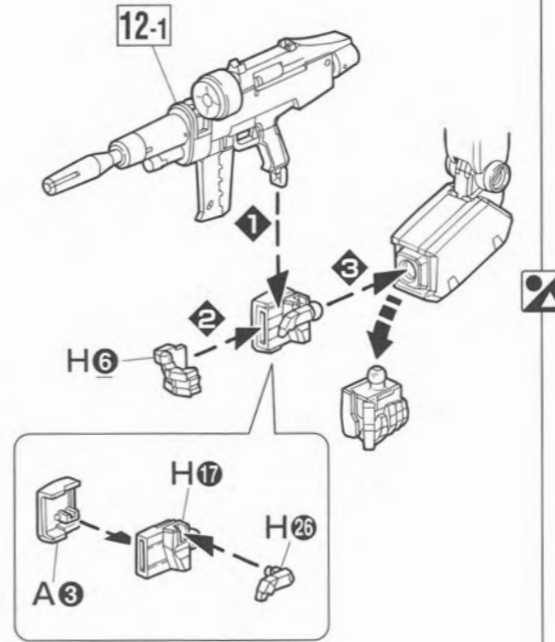
## 12-4 BEAM SABER

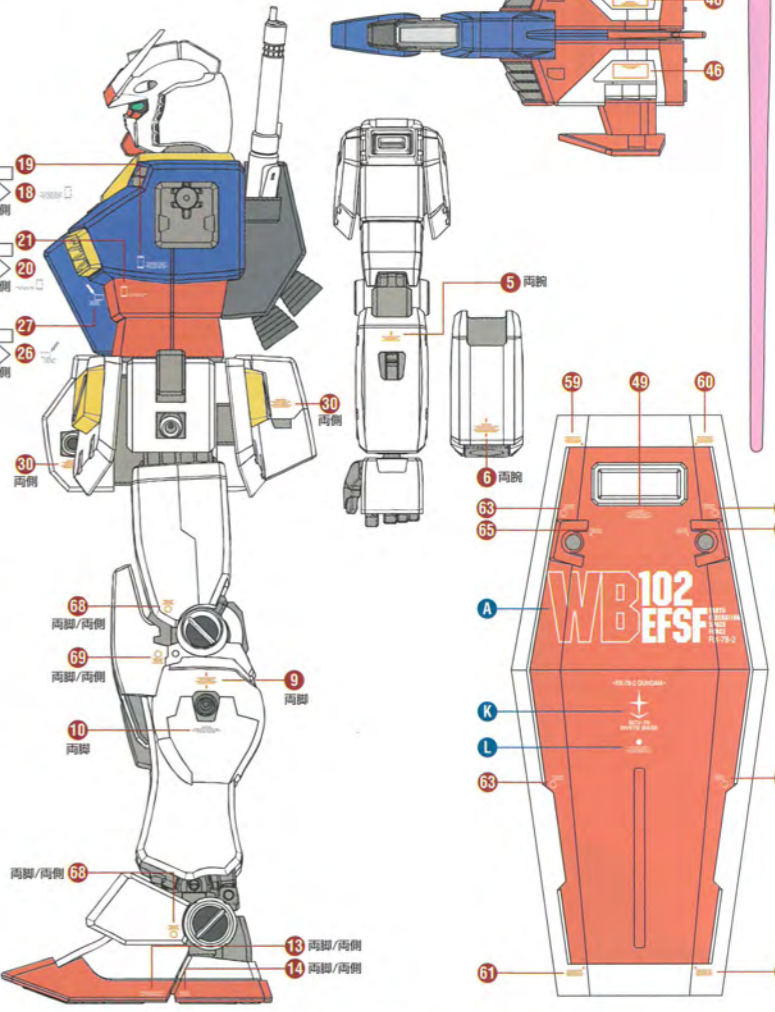
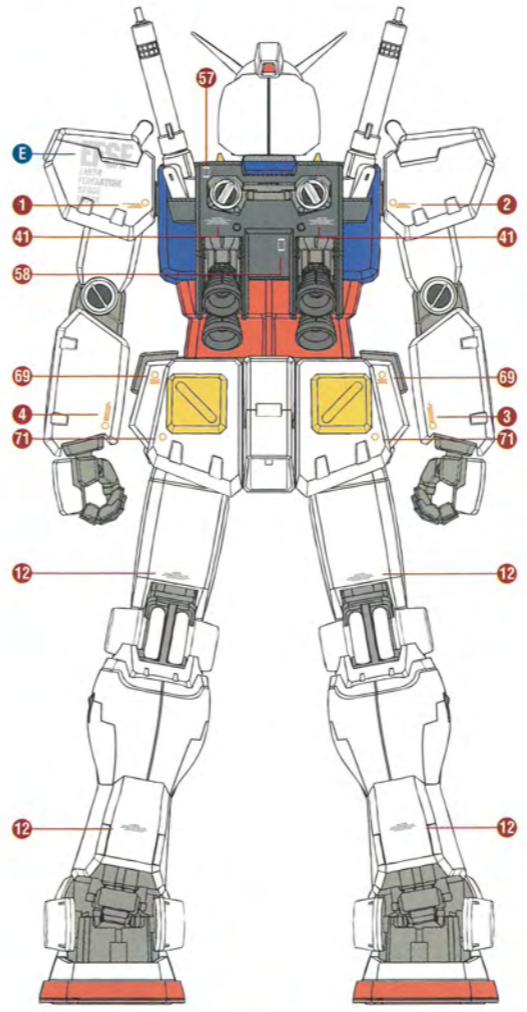
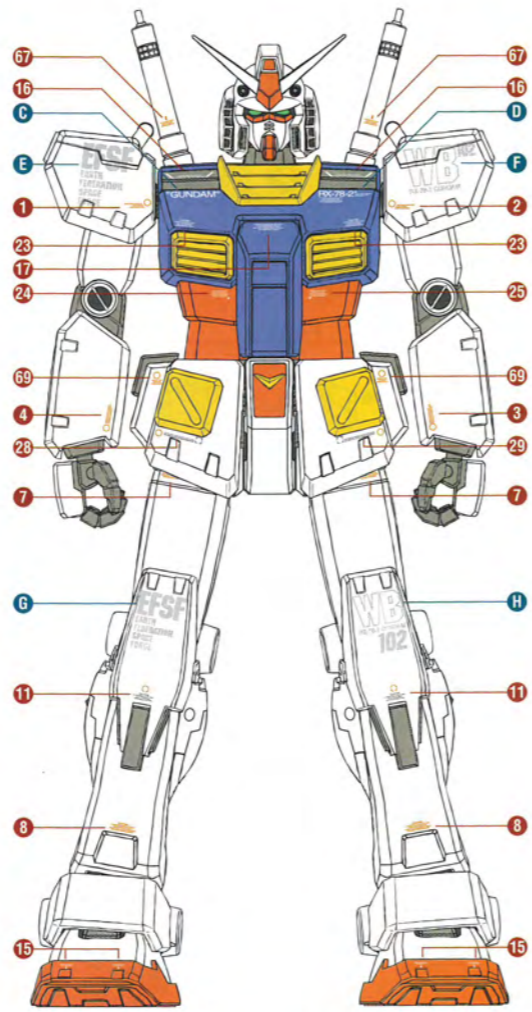
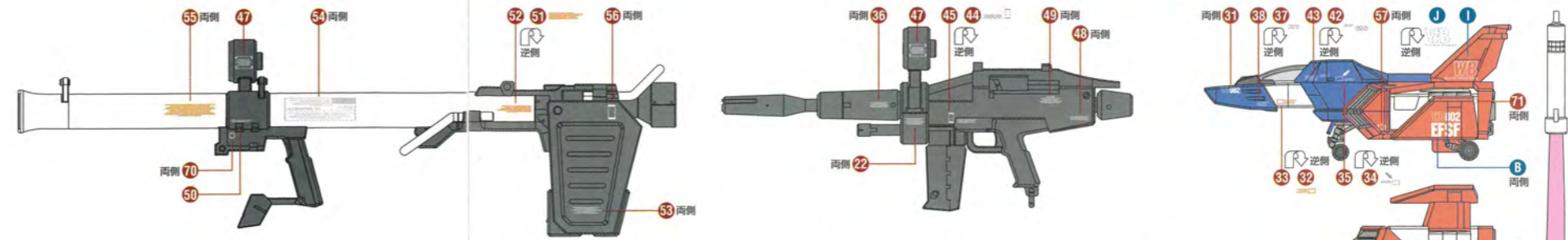
(ビーム・サーベルの組立)



## 12-5 WEAPONS EQUIPMENT

(武器の装備)





**COMPLETE DIAGRAM for painting and applying decals**

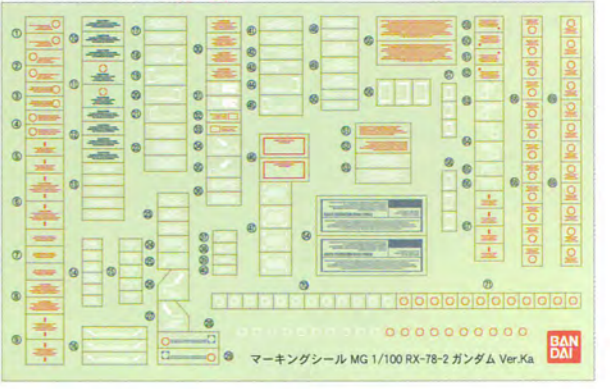
- ガンダムデカールの貼りかた
1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
  2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペンなどの先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
  3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

**RX-78-2 GUNDAM Ver. Ka**  
Gundam Models Designed and Produced by Ka

■ガンダムデカール A~O



■マーキングシール 1~7



**COLOR CHART used paints and mixture ratio**

青・ガンダムカラー ブルー12 コバルトブルー(50%)+ホワイト(30%)+ ブルーグレー(10%)+パープル(10%)	白・ガンダムカラー ホワイト12 ホワイト(100%)+クリームイエロー(少量)	赤・ガンダムカラー レッド7 モンザレッド(90%)+オレンジ(10%)+ ピンク(少量)	目 クリアイエロー(80%)+クリアグ リーン(20%)
黄・ガンダムカラー イエロー2 イエロー(50%)+ホワイト(50%)+ ピンク(少量)	武器・ガンダムカラー アームズグレー グレー(50%)+レッド(30%)+ホワイト (10%)+オリブグレー(10%)	関節・ガンダムカラー エクストラダークグレー グレー(80%)+白(20%)+レド ド(少量)	バーニッシュ 黒鉄色(100%)+シルバー(少量)

●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。